第3回 釧路港将来ビジョン懇談会 意見要旨

日時：2024年7月16日(火)14時00分～

場所：釧路市生涯学習センター8階特別会議室

<釧路港 全般について>

- ・市民認知の向上は、非常に重要な点だと考える。
- ・地域のポテンシャルなどを集中してビジョンを実現するように進めてもらいたい。
- ・街の賑わいと港の賑わいが連動して、一体となって進めていくということを訴えるべきと考える。
- ・市民が港まちを感じられるまちづくりについての記述を増やしてほしい。
- ・地域の理解とキャリングキャパシティ（環境容量）を考慮する必要がある。
- ・東港と西港の将来像は腑に落ちる。これをどのようにして実現させるかを今後検討しなければならない。
- ・魅力ある港湾計画の提案こそが、民間投資を誘発すると考えている。
- ・長期構想では、分かりやすく力強い、キャッチコピーを策定したい。
- ・将来に向けて前向きな夢を持つ、可能性を追うということが、これからの人口減少を抱える国、地域にとって大事なことである。これからのビジョンは、できるだけという予測で描くだけではなく、様々な可能性を追い求めて、それを皆で共有し合いながら、進めて行く必要があると感じている。
- ・これまでの全3回の懇談会の意見を最後に掲載する示し方があっても良い。
- ・北海道の産業戦略というのは、北海道の大きな森林資源、それを活用して移出産業にしていくのは最大の戦略である。大手製材メーカーが、釧路の日本製紙の跡地に進出する動きなど、経済、産業の骨太の部分を見極めながら夢のあるビジョンにしていくことが大事ではないかと感じている。
- ・将来、日本の長期を見通していく上で、一番大きな懸念材料は国際環境の不安定であると考えており、経済安全保障がここ数年のキーワードになっている。
- ・90年代以降、製造業の立地は海外にシフトし、日本の産業政策は、地方における産業立地生産にも関心がなくなっていた。しかし、経済安全保障という不安定な環境が、ラピダスなどの製造業が地方に進出する戦略になり、地方を活性化させていくツールにもなりうる。そういう視点を持つことが重要である。

<物流について>

- ・物流のコンセプトに効率化や利用促進等のフレーズを加えると良いと考える。
- ・道路整備、荷捌所の新設は不可欠である。ただし、荷捌所の建設は民間だけでできる問題ではないので、官民一体となって進める必要がある。
- ・現在ほくれん丸は第2埠頭を使用しているが、本当に第2埠頭のままで良いのか検討を行う必要があると考える。
- ・時間が掛かるが、道路網の整備を進めてほしい。十勝港も物流拠点になるアクションを起こしているので、しっかり取り組む必要がある。
- ・西港については、用地が限られている。スクラップアンドビルドでは時間が掛かりすぎるので、リリースされていない用地を早く使えるようにしていただきたい。
- ・国内外の定期航路便、現状で釧路港を利用している貨物こそが釧路港を支えていることを大前提に認識すべきである。これらの貨物の利便性がさらに向上し、課題が解消される港づくり、計画が必要である。
- ・シャーシプールの拡張、コンテナヤードの機能性アップ、ガントリークレーンの更新、国際バルクの取組などを進めると、必然的にクルーズ船の専用バースや埠頭別機能の明確化に繋がる。
- ・RORO 船は、岸壁の背後にシャーシヤードがあることで一番荷役効率が高まるので、内貿ユニットロードターミナルの整備はぜひ実現してほしい。
- ・外貿コンテナターミナルは、小口混載貨物施設、積替施設整備等があれば、外航船社も寄港のタイミングが出てくるのではないかと考える。
- ・静穏度の高い港であれば船の運航率も上がるので、長期構想で検討してほしい。
- ・中央埠頭の市営上屋を解体したことによる代替として、民間が新たな倉庫を建築して運用しており、現況の貨物については運用できている状況である。
- ・物流の2024年問題に対応しつつ、新たな需要を掘り起こし、貨物の誘致が必要になると考えており、それには、冷凍・冷蔵の機能を持った積替施設の整備が必要であると考えている。
- ・物流については、現況の使いづらい部分の解消など、選ばれる港になるよう、取り組みを推進したい。

<観光について>

- ・市民に認知されて、街の価値を高める港ということで、日常的に市民の皆さんにも使用され、街や観光産業が活性化すると考えている。
- ・釧路は避暑地であるなどの強みを活用して、釧路川リバーサイドでの展開を検討することが必要と感じた。
- ・まだ活用できる歴史的建築物もあることから、既存ストックの活用を検討する必要があると考える。
- ・クルーズ客船のターミナルが整備されれば、大きな機能向上が図られると考える。
- ・観光に係るオーバーツーリズムや人手不足のことを考えると、市民との協働が必要になってくるので、市民に港に慣れ親しんでもらうことが重要である。
- ・賑わい・交流は、市として推進している都心部の賑わいづくり、中心市街地の活性化、鉄道高架のまちづくりなどと連携して、検討していきたい。
- ・クルーズ客船の船長インタビューにて、釧路港の寄港時のおもてなしは最高と言われており、また、今後は釧路の地元の食材を船の中でも出せるようにしたいとも言われている。問題点としては、大型クルーズ客船の場合、防波堤の位置の関係で少し入港しづらいということが言われており、また、西港から中心市街地への2次交通の問題も言われている。2次交通の問題については、港湾計画の改訂を待たずに市としてもできることを検討している。
- ・産業連関表が北海道開発局から今年発表された。道内、道外、海外を含めての貿易収支は、釧路根室地域だけが道内、道外、海外共に全部黒字だった。前回のデータでは、釧路根室地域は赤字だったが、サービス収支が改善しており、観光産業が発達したことにより、サービスで稼ぐ力をこの地域が持ち出した。このような産業の行動転換の分析、そういうところから港湾計画を練っていくという視点が必要である。

<環境について>

- ・RORO 船に LNG、水素、アンモニアを供給する施設整備については、将来において、RORO 船の利便性が向上したり、BCP にも有効だったりすると考えられる。
- ・海藻を牛に与えると、ゲップが減ってメタンガスが減るという効果があるので、ブルーカーボンと農業のコラボレーションもおもしろいと思う。

以上